

# 令和3年度 学校評価表

【評価の基準】 A:達成できている B:概ね達成できている C:あまり達成できていない D:全く達成できていない

学校教育目標		総合評価					
学校教育目標	豊かな人間性と高い教養を持ち、他者と協働し、主体的に将来を切り拓く力と、地域・社会を牽引する資質を持った人物を育成する。	<p>コロナ禍においても学びを止めないことを念頭に、生徒の安全確保を最優先に教育活動を展開した。難しい判断を迫られる場合もあったが、創立120周年記念式典や文化祭、修学旅行、クラスマッチ等の大きな行事が実施できたことはありがたいことであった。地域の方々、同窓会、PTA等のご協力やご支援もあり、充実した学校生活が送れていることに感謝したい。各係が担当ごとに行った自己評価は下表の通りである。概ね年度当初の目標に到達していると考えられる。</p> <p>本年度はICT特設委員会の職員が中心となり、先進校の視察や校内研修を実施し、ICT機器の活用が推進された。ほとんどの職員が対面授業とリモート配信を同時に行うハイブリッド授業を実施することができるようになった。</p> <p>県の「未来の学校」構築事業2年目の今年度の活動は、カリキュラムコーディネータを中心に先進校の視察や校内研修を充実することができた。来年度から新教育課程や観点別評価が実施されることに合わせて、具体的な実践が多く行われ、大きく前進することができた。</p>					
重点目標(中・長期的目標)	<p>◇保護者・地域との連携を深め、信頼を得る学校づくりを行う。</p> <p>◇社会の形成者として必要な規範意識の涵養とマナーの向上及び協働意識の育成を図る。</p> <p>◇生徒一人ひとりの興味・関心、能力・特性に応じた適切な指導・支援を行うことにより、豊かな人間性を養い、社会を担う人材を育てる。</p>						
今年度の重点目標	<p>◇国際カリキュラムを研究する実践校として、先進的先端的学びを創造し、新しい教育課程の編成を促進する。</p> <p>◇豊かな知識・表現力、創造的な思考力、課題解決力、主体性を身に付けた生徒の育成を目指す。</p> <p>◇職員、生徒、保護者が相互に連絡連携を取り、個々の生徒一人ひとりのニーズに応じた支援を目指す。</p>	<p>・国際的な教育プログラムを研究する「未来の学校」構築事業では、新教育課程における学校設定科目設置を行った。実践校の視察を行い、内容の検討を進めることができた。</p>	A	B	C	D	<p>・新教育課程の実施にあたり、ルーブリックや観点別評価についての共通理解を進め、風越高校の目指す学習者像を育てるプログラムを推進する。</p>
		<p>・1・2年生における探究的な学習では、普通科の「社会と情報」及び国際教養科「課題研究」の発表会を2月に行った。オンラインでの実施となったが、外部の方にも参観していただくことができた。</p>		○			<p>・授業におけるICT機器の効果的な利用を含め、探究的な学びの内容充実を図りたい。生徒の思考力や主体性を重視した授業展開ができるよう、校内研修や外部講師による講演を実施していきたい。</p>
		<p>・学校からの一斉メール配信やgoogle classroomを用いた生徒相談日より等の発信を活用しながら、学習フォーラムの案内や支援窓口の案内を行うことができた。</p>		○			<p>・生徒や保護者の意見や要望を職員で共有できる体制と、組織的に対応できる体制を整え、学習面、生活面ともに個々のニーズに応じた支援を心掛ける。</p>

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育課程	生徒・保護者および地域の期待・要望を勘案し、風越高校の特色を生かせる教育課程の検討を進め、提示していく。	次年度の文理分けや講座選択において、生徒の進路や興味・関心に応じたコース等の提示ができたか。	各学年と連携し、生徒の進路や興味・関心に応じた選択科目、学年の意向に沿った選択科目の提示ができた。また、生徒の希望を考慮しつつ、科目・講座選択をさせることができた。			○			講座数は職員定数とも関係してくるため、来年度以降も講座編成については難しさが予想されるが、生徒の進路希望ができるだけかなうような講座編成を考えたい。
		新1年生の新教育課程の修正箇所を修正し、新教育課程に伴う新2・3年生の旧教育課程等の変更を行うことができたか。	新1年生から始まる新教育課程の昨年度からの継続課題であった部分の修正はできた。新2・3年生の旧教育課程の変更は今年度は行わなかった。			○			新教育課程も1年生で実施されるので、その中での改善点や2・3年生時の新教育課程も再度検討し、より良い新教育課程の編成を目指したい。
	学力の向上を図るために学習習慣の確立に努める。また、総合的な探究の時間(Fの学び)の在り方について検討していく。	家庭学習の充実を図ることができたか。	ICT特設委員会と連携しながら、自宅でもオンライン授業ができるよう、研修や実践を行うことができた。また、生徒もオンラインに対応できるシステムづくりができた。	自宅にいる生徒に対する学びを、全職員がオンライン授業等で十分に保障できているとは言い難いので、質の高い学びの保障のため、意識改革や実践経験を積むことが必要。			○		
		生徒の進路・ニーズに合った補習授業(土曜・平日)はできたか。	生徒の希望に応じて、特別学習講座の在り方について検討し、来年度以降の改善の道筋をつくることができた。	生徒の希望に応じて、これから求められる力をふまえて、探究学習とも関連させながら検討していく必要がある。			○		
		高大接続改革の研究をふまえ、「Fの学び」について検討、計画をすることができたか。	探究学習WGとも関わりながら、来年度以降の探究学習の本格実施に向けた準備を行うことができた。	本格実施をすることではじめて浮き彫りになる課題に柔軟に対応しながら、来年度以降に効果的につなげていくことが必要。			○		
	進路指導	進路希望に合わせた情報の提供と指導を行う。	生徒の意識の高揚を図りながら進路希望に沿った指導ができたか。	新型コロナウイルス拡大の影響もあって全国的に安全志向が強まり、総合型(AO)、推薦で早めに進路決定をする傾向が見られるなか、強気の出願をした者にはチャンスのある年でもあった。入れる学校だけでなく、入りたい学校へ積極的に出願するよう指導した。			○		
職員間の進路情報、指導法の共有を図る。		模試情報の迅速な共有とオンラインでの情報活用技術向上の取り組みができたか。	模試情報利用の職員講習会を、ベネッセの本校担当者講師とオンラインで結び実施した。3学年会では共通テストの判定システム利用に関する講習会を実施した。			○			BENESSE HIGHSCHOOL ONLINE と FINE または、KEI-NAVIの職員講習会は引き続き企画し、模試結果や、進路情報の有効活用を図る予定である。
キャリア教育の課題を具現化した進路指導を行う。		「Fの学び」等を通して、進路意識を高揚させることができたか。	年度当初は、学年対象の進路講話を対面で実施できたが、感染再拡大に予定していたいくつかの進路行事はできなかった。特に1,2学年対象の地域職業教育は企画したものの実施延期が続いている。				○		希望の多い医療系の職業に関する体験学習等を、これまで同様積極的に取り組んでいく。大学等卒業後のUターン就職の参考にもなるよう地域企業の紹介なども関係機関や企業と協力して行う。
生徒指導	社会規範・交通規則・校則を守る意識を高め、いじめのない自律的な学校生活を送れるよう支援・指導を行う。	いじめ案件などにすぐに対応できたか。	・相互の立場を聞き取り、適切に指導できた。 ・SNSでの事案が多いため、SNSの危険性の指導がさらに必要だと考える。			○			・アンケートなどに出てこない件もつかむような方法を考えたい。
		規範意識が高められたか。特にSNSの危険性について理解が深まったか。	・インターネットの危険性についての指導は各学年実施できた。 ・SNSでの事案が多く起きたのでさらなる指導と生徒の知識が必要だと考える。				○		・SNSについての意識を高める講演などを実施したい。
	地域・家庭との連携をはかり、安心・安全な環境を維持し向上させる。	地域・家庭との信頼関係を深めることができたか。	・些細なことも家庭への連絡を怠りなくできた。 ・家庭と学校との連携はうまくいったと考える。				○		コロナ禍のなかで連携をとるのが難しくなった。何らかの方法を考えたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教 育 活 動	教育相談	教育相談態勢の充実を図る。	職員間で共通認識を持ち、適切な支援ができたか。	定期的に係会を行うことにより、情報交換ができ、担任以外でも様々な立場から生徒の支援ができた。発達障害に関する職員研修を実施した。		○			今後も職員間の情報交換を密にし、心配な生徒の対応を早めに行えるようにしたい。
			関係機関の活用、連携ができたか。	SCの担当時間を昨年度よりも増やして頂いた。友人関係、進路、家族関係などの悩みを抱える生徒に丁寧に対応ができた。	○			関係機関について、生徒、保護者への周知をさらにすすめて、支援の充実を図りたい。	
	生徒会	自治活動としての支援をはかる。	委員会、クラブ、風越祭など充実して行えたか。	制約の多い中、昨年よりも多くのことを文化祭で行うことができた。クラブ活動や委員会活動も制限があったが、それぞれできることを積極的にに行った。		○			今後も、今までのような行事等が行えなくても、形を変えながら臨機応変に行っていく。
			地域に根ざした活動を目指す。	ボランティア活動などを中心に、地域に出て活動させることができたか。	赤い羽根共同募金では街頭募金・学校募金とも行い、生徒の協力を得ることができた。カンボジアへの物資は少ないながら集めることができた。		○		地域の清掃など身近なことから行っていきたい。カンボジア物資は継続していく。
			マナー、モラルの向上をはかる。	あいさつや身だしなみ、環境美化などの啓発を行えたか。	本部役員が年度当初に挨拶運動を行った。スマホルールや服装規定について考え、一般生徒に投げかけている。		○		本部役員を中心に、マナーやモラルについて考え、さらに啓発活動を行っていく。
	保健活動	自己の健康課題を把握し、健康の保持増進・感染症対策に主体的に取り組む力を育てる。	健康の保持増進に努める取り組みをサポートできたか。	新型コロナウイルスへの感染予防の観点からも、毎朝の体調チェックシステムを用いて体調管理の把握に役立てることができた。		○			生徒が自主的に自己管理や健康増進について行動に移すことのできる呼びかけをさらに充実させる。
			夏場の熱中症の予防等、季節に合わせた体調管理ができるよう、啓発活動を行うことができたか。	授業中の水分補給を促したり体育行事をはじめ各行事において注意喚起を高めることができた。また、エアコンの設置等もあり熱中症の発生を予防できた。		○			エアコンの設置がされていない研究室、教室があり、引き続き対策を検討していく。
			年間を通して感染症の予防に努め、校内での感染症の蔓延を最小限にとどめる取り組みができたか。	新型コロナウイルスの感染拡大防止のための意識づけをすることにより、職員、生徒の基本的な対策に関わる行動の向上に努めることができた。		○			感染症対策について、さらに実施可能な細かな部分を探し、対処策を実現させる。
	図書	図書館の利用促進をいっそう図るとともに、高大接続に向けた資料の拡充を目指す。	図書館の情報発信・資料の拡充とともに、資料閲覧、調査、貸出が円滑に行えたか。	授業や進路実現のための資料提供がスムーズにできた。また、タブレットの配置により、オンライン授業などで利用する職員に必要な時にタブレットを提供できた。		○			図書館でできることを発信し利用を促していきたい。特に図書館は図書だけではなく、「情報」を扱っていることを周知し、情報リテラシーを高めることにも力を入れていきたい。
			視聴覚	コロナウイルス禍の中で学びの継続を保障する方途を探る	休校になった際等、on-lineによる学びの提供が行えるよう環境を整えていくことができたか。	昨年度に引き続き芸術鑑賞は未実施になった。on-lineによる学びの提供が行えるよう職員一丸となって取り組むことができた。		○	
人権平和	基本的人権を享有し、人間の尊厳を尊重して差別・偏見・いじめを容認しない意識の向上や環境を整える。平和や真理を希求する人格を育成し、人権尊重の実践を目指す。	平和と人権学習や修学旅行体験を通じて、戦争と平和、差別や不当な人権侵害の事例について学び、人権感覚を養い、磨くことができたか。	全校一斉に映画鑑賞を実施した。今回は新たに地元伊那谷と自己との関係にも意識を向けてもらうよう「実りゆく」という映画を取り上げた。障害をもつ葛藤と自己の夢の実現、地域や家族との関係、地元や伝統文化と都会へのあこがれなどを考えさせられたという感想が多かったのは一つの成果であったと思う。		○			コロナ禍ではあるが、修学旅行を実施することができ、長崎での平和学習を充実したものにしようと努力し、実現させた。生徒が主体的に平和人権学習に取り組む機会として修学旅行を位置づけ、人権感覚の向上につなげていきたい。	
		いじめや命の尊さについて学び、人権意識の向上を図ることができたか。	学年では、東日本大震災を取り上げたドキュメンタリー映画を鑑賞し、防災意識を高めるだけでなく、人権問題についても生徒に考えさせることができた。		○			差別やいじめの問題を深く考えさせる良質な映画であったと思われる。人権意識の向上をさらに図るため今後もよい教材の研究に努めたい。	
学校運営	保護者・地域との連携	配信メールや広報誌、Webページで学校情報を積極的に発信できたか。	Webページがリニューアルされ、情報の発信に有効に活用することができた。今後コンテンツの追加が課題である。広報誌は2年ぶりに毎月1号のペースで発行できた。	○				Webページに生徒会やクラブ活動など、生徒の様子がわかるページを加えていきたい。広報誌と合わせて、継続的に更新や発行ができる校内組織をつくる必要がある。	
		PTA活動や学校評議員会の意見を学校の教育活動に生かすことができたか。	昨年度に引き続きのコロナ禍で、PTA総会を開催することはできなかったが、PTA関係審議は、書面のやりとりで賛否のご意見をいただいた。学校評議員会は予定通り開催でき、貴重なご意見をいただいた。		○			地区PTAを廃止し、教職員および保護者の負担が軽減されたことはたいへんよかった。今後は別の形で、保護者の意見が聞けるようなシステム作りを目指していきたい。	